

2017年5月

リサイクルガラスのインスタレーション本日5月31日公開！！

アートと最先端の産業のコラボレーションによる幽玄の空間が出現！

# 西中千人「一瞬に煌めく永遠」 ～ガラスアートの瞑想空間へ

・会 期:5月31日(水)～6月20日(火)

・会 場:日本橋高島屋1階正面ホール



ガラス工芸作家<sup>にしなかゆきと</sup>西中千人氏が、日本橋高島屋1階正面ホールのためにリサイクル曇を素材として制作された、インスタレーション作品が登場しました。西中氏がパブリックスペースに作品を発表されるのは初めてのことです。

目の前に広がるのは、大小17点ものガラスのオブジェが起立する瞑想の空間。ミストが苔の間から静かに漂い、自由なイマジネーションの宇宙へと誘います。

今回西中氏とコラボレーションしたのは、岐阜県大垣市で昭和5年に創業したガラス曇製造会社。主力となる茶色のドリンク曇では、毎分730本の生産力を誇り、世界最速の生産スピードを保持しています。ガラスのリサイクル率はいまや70%以上で、再利用を繰り返すことで、人間社会の中を循環していると

もいえます。今回の作品素材となったガラスも、すべてリサイクルガラスを使用しています。アートが日本企業の最先端技術と融合することで生まれた空間は、「地球資源の循環型社会」に思いを巡らす契機となるかもしれません。6月の環境月間にもふさわしいアート作品を、どうぞご覧ください。また、1階正面ホールでの作品展示後6月21日（水）からは、6階美術画廊にて西中氏の個展も開催いたします。



## 西中千人ガラス展「破天」—天をも破り、未踏の地へ

- ・会 期:6月21日(水)~27日(火)
- ・会 場:日本橋高島屋6階美術画廊

西中千人は、「ガラスの呼継」で、不完全な美を追求し続けています。今展では、呼継から派生した「転生」で、ヒビを余白として生命の強さや儚さを語ります。

このほか、光の粒で生命の煌めきを表現した「ヒカリ包む」、命、資源の循環をテーマとした「一瞬に煌めく永遠」など、「ガラスは割れる 人は死ぬ。だから、今この一瞬を生きる」をメッセージとした作品群を展覧いたします。

西中千人

転生「焰」

### <西中千人氏プロフィール>

1964年和歌山市生まれ。星薬科大学薬学部卒業。カリフォルニア芸術大学でガラスアートと彫刻を学ぶ。ヒビで命の煌めきを表現した、

「ガラスの呼継」で WIRED 主催「CREATIVE HACK AWARD2013」グラフィック賞を受賞。その後海外アートフェアでも「ガラス呼継」が注目を集める。2014年、吉川美術館 爲三郎記念館での西中千人展は、ガラス=光を取り入れた日本庭園と数寄屋建築の中でのインスタレーション「夢で見た花」「補陀落」が話題に。日本耐酸壘工業との共同プロジェクト、リサイクルガラスを用いたアート作品第1号、ガラスの日本庭園「ヒカリ溢ルル」が2016年、板室温泉大黒屋に設置された。

### 日本耐酸壘工業株式会社

岐阜県大垣市で創業86年を迎えるガラスびん製造会社。現在400種類ほどのガラス瓶を製造しており、全体の生産量をドリンク壘に換算すると、日に350万本、年間では約13億本のガラス壘を供給。それは、並べると地球4周の長さとなる。同社はガラス壘のエキスパートとして、ガラス壘による循環型社会の実現を目指し、リサイクルをスピードアップするための独自のプロジェクトを推進している。

【お問合せ】 日本橋高島屋 Tel.(03)3211-4111(代表)